

## 主 文

本件上告を棄却する。

## 理 由

弁護士佐藤邦雄の上告趣意第一点は事実誤認、同第二点は単なる法令違反の各主張であつて、いずれも適法な上告理由にあたらない。

弁護士松本一郎の上告趣意第一点は、判例違反をいうが、所論引用の判例はいずれも事案を異にし本件に適切ではなく、適法な判例違反の主張にあたらない。同弁護人の上告趣意第二点のうち、当裁判所の判例違反をいう点は、当該判例を具体的に示していないから、適法な判例違反の主張にあらず（所論に引用されている東京高等裁判所の判決は、事案を異にし本件に適切ではない。）、その余の点は、単なる法令違反ならびに事実誤認の主張であつて、適法な上告理由にあたらない。同弁護人の上告趣意第三点は、事実誤認ならびに単なる法令違反の主張であつて、適法な上告理由にあたらない。

よつて、刑訴法四一四条、三八六条一項三号により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和四五年六月一日

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	岩	田	誠
裁判官	入	江	俊 郎
裁判官	長	部	謹 吾
裁判官	松	田	二 郎
裁判官	大	隅	健 一 郎